

AIで路上飲酒者検知

渋谷区実験 防犯カメラ映像解析

渋谷区などがつくる「路上飲酒対策プロジェクト」が、AI（人工知能）で路上飲酒者を検知する実証実験を行っている。警備員によるパトロールと組み合わせることで、検知の効率を上げる狙いがある。

同プロジェクトは繁華街での路上飲酒などの迷惑行為を減らすため、区やNT

T東日本などが連携して開始した。渋谷駅周辺は条例で、夜の路上飲酒が禁止されているが、路上飲酒者は後を絶たず、区は毎日約10〜20人の警備員を配置して注意を呼びかけている。

今回の実証実験では、区内の繁華街に設置した防犯カメラの映像を常時AIが解析。複数人で同じ場所に

一定時間とどまるといった路上飲酒特有の行動を検知する仕組みだ。場所も特定し、巡回中の警備員にメールで通知する。映像は、顔にモザイク処理をかけるなど個人が特定できないよう編集して提供されるという。

実証実験は3月末まで行う予定で、区グローバル拠点都市推進課は「地域住民や来街者が安心して過ごせる環境づくりに取り組みたい」としている。

『読売新聞』2026年3月22日付20面